

『教会の信仰告白（宣言）って?』（前編） 吉田真司

なぜ「教会の信仰告白（宣言）」が必要なのでしょう?・・・今巻頭言はこの問いから始めましょう。2 ペトロの手紙にこうあります。「何よりもまず心得てほしいのは、聖書の預言は何一つ、自分勝手に解釈すべきではないということです」(1:20)。そう、私たちの聖書理解は不完全なものです。フィリピの手紙には「わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。・・・わたしたちは到達したところに基づいて進むべきです」(3:12、16) とあります。この部分で、12 節では「わたしは」という単数形で、16 節では「わたしたちは」という複数形になっていることに注目しましょう。私たちは、自分だけで聖書を読んだり、その理解に基づいて行動したりしても限界があります。私たちは、キリストのからだなる教会につながり、共に礼拝を守り、聖書を学び、祈り、奉仕する中で、聖書理解と信仰が整えられ、成長させられていくのです。その時私たちは共に歩む者同士、その信仰を共有しなければなりません。その共有の指標が「教会の信仰告白（宣言）」です。

ある人は思われるかもしれませんが。「聖書は一つなのだから、信仰は一つではないですか?」と。その問いに対して「確かに」と応えたい。しかし実際、聖書は一つでありながらも、その解釈は多くに分かれます。2 千年にわたるキリスト教会の歴史の中で、数え切れないほどの神学論争がなされてきました。それは不完全なる人間であるが故の必然です。時代的にも、科学的解明が進んだ現代と、5 百年前や一千年前とでは、聖書資料の研究方法にも大きな違いがあります。

では時代が変われば、古いものは間違っていて、新しい価値観が正しいということでしょうか? そうではありません。むしろ新しい発見を通して、過去の古いものの中に真理を見出すことがあります。また、古いものから新しい知識を得ることがあります。「温故知新」とはそういうことです。私たちのバプテスト教会が誕生したのは 17 世紀のイギリスでした。その誕生の背景には、西欧を揺り動かした宗教改革の歴史がありました。「改革」とは本来あるべき姿の回復を目指すことです。一方で「革命」とは、過去の一切の価値体系を壊し、新しい価値体系を創ることを目指します。西欧における宗教改革は、「革命」ではなく「改革」、すなわち、キリスト教を本来あるべき姿に戻そう、とする運動だったのです。

・・・(次回に続く)

教会の定例集会

主日礼拝	日曜日	午前 9:00～10:00 (相模原礼拝)
		午前 10:40～12:00 (会堂礼拝)
教会学校	日曜日	午前 9:30～10:20
(嬰兒、幼児、小学生、中高生、青年、成人、英語、聖書入門の各クラス)		
祈り会	水曜日	午後 7:30～9:00
金曜集会	金曜日	午前 10:30～12:00
家庭集会 (相模原)	第二火曜日	午前 10:00～12:00 (竹村家)
(すずかけ台)	第三木曜日	午後 1:30～3:00 (長谷川家)

日本バプテスト相模中央キリスト教会

〒242-0007 大和市中央林間 4-2 4-6 TEL&FAX 046 (274) 3708

牧師：吉田真司 音楽・子どもユース担当主事：江原美歌子 協力牧師：斎藤剛毅

<http://www.sccc.sakura.ne.jp>